

令和8年度 大田区立御園中学校 自己評価 報告書

令和8年9月18日

○ 本校の概要

本年度は、1学年4学級、2学年3学級、3学年3学級、生徒数308名(9月現在)の規模となった。このうち、みらい学園中等部(学びの多様な学校分教室)の3学級に59名の生徒が在籍している。本校の教育課程は、「通常学級」「特別支援教室(拠点校)」「通級指導学級(難聴)」「学びの多様な学校分教室」に加え、今年度から「チャレンジクラス」が本校に設置(3学級に5名が在籍)されたため、さらに多様な生徒が在籍することになった。また、22名の外国籍の生徒(4ヶ国)が在籍しており、そのうち、2名が満田中学校の日本語学級で、5名の生徒が校内で日本語の特別指導を受けている。

「大田区教育委員会教育研究推進校」「中学校版『おおたの未来づくり』研究実践校」「キャリア教育モデル校」「みらい学園中等部」

【目指す学校像】「挨拶と笑顔が自慢の御園」人権尊重の精神と自主自律を基本とし、多様な学びをとおして生徒の可能性を引き出すとともに、自らの生き方を主体的・肯定的に捉え、社会とつながり、自立するための資質・能力を育成する学校を目指す。

【本校の教育を推進する5つの柱】本校の教育を推進するうえで、次の3つについて取り組んでいる。

1. いじめ対応、不登校への支援の徹底 2. 課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成 3. 新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上 4. コミュニティスクールの推進 5. 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測 る困 目力 難標 をな 1育 未成 し社 会を 創 造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	生徒の「学校生活アンケート」で「主体的に考え問題解決のためのタブレット活用」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
お世個 お界別 た目標 をつ 標担な 2う が人 材国 を際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	生徒の「学校生活アンケート」で「コミュニケーション能力の向上」「国際社会・地域社会への関心」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
た一個 人別 のひ 目基 と標 礎り 3と が個 の性 力と 能育 力成 しを 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	生徒の「学校生活アンケート」で「規則や規律を守る」「健康や安全に気を配る」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
学個 校別 力目 ・標 教4 師力 を向 上さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。おわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	生徒の「学校生活アンケート」で「授業はICT機器を有効活用して分かりやすく深く考えることが出来る」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
た自個 め分 別 の目 学し 標 びく をい き 援い きと ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることによって、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生活するための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	生徒の「学校生活アンケート」で「学校生活・社会生活は楽しい」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。							
安柔個 心軟別 なで目 教創 育造 6環 境的 な を学 習 く 空 り 間 ま と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備とともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者の「学校評価アンケート」で「ICT機器の有効活用」「特色ある教育活動」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
学地学個 校域校 校別 をコ・目 ミ家 標 ク庭 7リ ニ・ テ地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	保護者の「学校評価アンケート」で「学年通帳や学校ホームページにより学校の様子がよく分かる」についての肯定的な回答の割合	4:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
		②家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	肯定的な回答が80%以上	3:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
		③おおたの未来づくり「キャリア探究」や職場体験、福祉体験を地域と連携して実施し、地域とともにある特色ある学校づくりを進める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	肯定的な回答が40%以上	2:			C		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	肯定的な回答が40%未満	1:			D		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。